ネイチャーセンターガイド（79）

「喜」

「怒」

「ヒミズ小僧の喜怒哀楽」

「喜」われらのびのび自然塾「農業体験隊」

今日は、畑の開墾と白菜と大根の種まきにやってきた。いろんな道具をもってこれから畑へ向かう。畑は草だらけらしい、イノシシもサルもくるらしい。

野生動物と上手く付き合うためにはどうすればいいのか？それも考えた。収穫までにすることは、種が成長するには何が必要か、紙に書いてみた。そして、植えた後の苗の育て方をこれから体験していく。

「怒」草の量をみて「えー」という怒号が畑のなかにひびいた。何もかもお膳立てをしてしまっては、体験の意味が薄れる。ありのままを子どもたちに見せ、伝えることが必要だ。そこから考える。そこで考える力にはじめて火がつくのだ。

何とかしてさぼろうとする子、指導者の目を外れて遊ぶ子、この苦痛の時間をどうにかして避けたい子、このような作業をしていると普段の生活の様子がすぐわかる。ここで手を抜いたら野菜は育たない。

なぜ、こんな仕事を真剣にするのか？

「哀」

「楽」

こんな疑問が子どもたちに伝わればいい、野菜を植えることが目標ではない、心を育てることが目標だ。

「哀」雨が続き地面が湿っていて、草が抜けやすいことを知る。土づくりの意味を知る。仲間の大切さを知る。協力し合うことを知る。草ににおいがあることを知る。水のうまさを知る。徐々に畑になっていく姿を目の当たりにする。スタートしてゴールへ向かっていることを体感する。目つきが変わる瞬間がある。生きていく力を実感している。

体験を通して心に染み渡る心の変化を生きていく力を実感できる暮らしはもう出来ないのだろうか？

「楽」自分たちの手で作り上げた畑は子ども一人ひとりに何かを訴えたはず、機械は使わず、全て自分たちの手で作り上げた畑、そこに言葉はいらない。

その言葉は胸にそっとしまっておこう。

連絡・問合先　☎(45)6222
宝の山ふれあいの里ネイチャーセンター
開館時間：午前９時から午後４時まで
休 館 日：月曜日、祝祭日の翌日

伝言板

富士北麓・東部地域振興局健康福祉部（大月保健所）

結核から身を守ろう

結核は今だに我が国最大の感染症です。日本は先進国の中でも他の欧米諸国に比べ、結核感染者が多く未だに中程度のまん延国です。

結核の制圧は早くて２０６０年ごろと予測されています。50年以上も居座り、今後も充分な結核対策が必要となります。

現在の問題点

○高齢者の発病率が依然高い。体力が低下しているため、老人施設、医療機関での集団感染の発生。

○若年層の感染性の増大。結核未感染のため、学校や職場で集団感染のおそれがある。

○かぜと考えて発見が遅れる。健診などで胸部のレントゲン写真を撮る機会がない。

このため、厚生労働省は重大な病気の一つと考え、国民一人ひとりが結核に対する正しい理解と協力が必要としています。９月24日(金)～30日(木)を結核予防週間とし普及啓発活動を展開しています。２週間以上せきが続くときは、早めに受診する。毎年定期健診を受け、胸部レントゲン写真を撮る。

こころの健康相談

こころの問題は目に見えないものです。もし、家族や回りの人の中で最近、眠れなかったり、イライラするなど精神的なストレスを感じることがありましたら、早めにご相談ください。

◎相談内容

児童・思春期の不登校、成人の精神的ストレスなどによる各種疾患、問題飲酒、高齢者の痴呆、こころの健康に関する諸問題など

◎担当スタッフ

精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など

◎実施日（精神科医による相談日）

成人精神保健福祉相談
毎月第２水曜日
午後２時から４時まで

老人精神保健福祉相談
毎月第４水曜日
午後２時から４時まで

※精神科医師以外のスタッフでは随時、相談をお受けしていますが、来所相談の場合には、予め電話でご予約ください。

問合先　障害・家庭福祉課
☎(22)7826